



萌木 12月号

～自尊・立志・感動～



調布市立第七中学校

校長 山田 勝

令和3年12月13日発行

「いのちと心の教育月間」の中で

校長 山田 勝

今月12月は、調布市が市独自の取り組みとして定めている「いのちと心の教育月間」です。6月、11月に東京都が進める「ふれあい月間」と共に、調布市の公立学校が大切にしている取り組みです。

思えば、私たちの社会生活では「〇〇月間」「〇〇週間」といった取り組みが様々あります。その取り組みが設定されたいきさつは個々の取り組みで違いがありますが、ほとんどの取り組みがその期間だけ意識すればよいものではなく、日ごろからしっかりと取り組むことが当たり前なのです。

「日ごろから大切にしている自他の生命を尊重する心や、より深い生命に対する畏敬の念を育てる機会とする。」ことが調布市の「いのちと心の教育月間」の目的です。この目的で謳われていることも、私たちは日ごろから当たり前のように取り組むべきことではないでしょうか。

当たり前に取り組むべきことを改めて「〇〇△間」と設定しているのは、その当たり前が、日常の中で埋没してしまわないように設定していると言えると考えられます。このように、「〇〇△間」として呼びかけることで、意識を高め、より良い社会を作っていくきっかけにしていきたいと思えます。

さて、今月の「いのちと心の教育月間」では本校は生命尊重を主題とした道徳の授業に全学年で取り組みます。また、23日には NPO 法人「犬猫みなしご救援隊」代表中谷百里様を講師にお招きし、ご講演をいただき、中学生という多感な時期に人として一番の下地になる「命の尊さ」を知ること、利他の精神を学ぶ機会を計画しています。

命を慈しみ、互いの心を思いあい尊重することに取り組めることが当たり前と思える心情を育むことを、今月の「いのちと心の教育月間」に進めていきたいと思えます。

私たちの社会がさらに成熟し、自分たちで高めあうことで、「〇〇△間」と謳わなくても日ごろから意識をもって取り組めていくことができることも目標に掲げたいと思えます。

年末年始は、1年の中でも「家族」が共に過ごす機会が多くなります。「年越し」や「正月」の行事も各家庭で受け継いできたものが多くあると思えます。年越しのそばや正月のお雑煮など、具や味付けなど地域ごとの風土や歴史により、受け継がれているものが違います。東京では、様々な地方からの人が集まっていて、隣の家とは全く違うものを食していることもあるでしょう。各家庭で受け継がれている自分の家庭とは違う食文化の歴史にも思いをはせ、尊重する心情を持つことで、自分の家庭の歴史の理解も深まるのではないかと思います。

「年越し」「正月」の自分の周りの歴史を考えることで、他者を思いやり生命を慈しむ心情も、また育っていくのではないのでしょうか。しっかりと時が流れるこの時期ならではの家族の時間を大切にお過ごしください。

七中 VNW(ボランティアネットワーク)の取り組み

新型コロナウイルスのため、なかなか活動ができませんでしたが、各クラスの VNW 委員が中心となり、期末考査後の11月15日から22日まで、朝のあいさつ運動と昼休みの落ち葉拾いに取り組んでくれました。

感染防止のため、事前に参加希望者を募りグループ分けをするなど工夫して取り組んでくれました。七中は、当たり前のようにボランティア活動ができる機会を、状況を見ながら設けていきたいと思えます。